

おしゃべり通信

No. 231 H31. 2. 15 発行 如春会 浦田医院

～H29年4月発行 日本小児科医会会報特集～



スマホパンデミック! ⑧

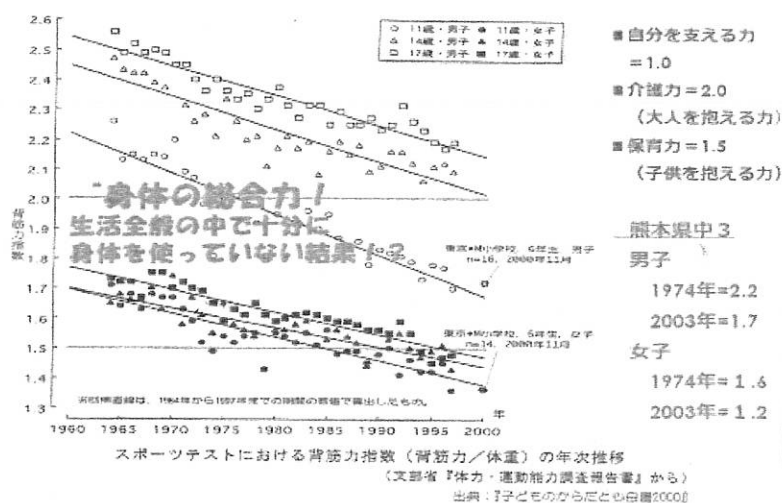
＜スマホ社会の落とし穴＞



2. 「劣化」の実相 ②

結論として、以下のようなことが現実化しています。

(1) 身体が育たない



機械力がなかった時代、ヒトは自分の体を駆使して生きていく手段を手に入れました。即ち「移動すること」「狩猟すること」「農耕する事」を発展させ、一番原始的には食べ物を手に入れ、衣服を手にし、住環境を整えてきました。

ですから、「二足歩行」しか移動手段がなかった頃には「早く歩けること・走れること」が人間の理想でした。頑健な体を持つことが良しとされたのは、継続した作業ができ、より効率よく、何かを手に入ることができるようになる為です。必要な技術力が身につくまでは、何が何でも我慢して「より優れた技術」を身に着けることで、個人は評価されたのです。その為には「根気」が必要で、身体共に「鍛える」事より高度にできた

ものが、社会人としても、より優秀と評価されたのです。病気をしない=健康である事さえ、社会的能力の一部として求められました。

生物学的な体力に差のある男女間では、仕事の役割分担がはっきりしており、男性は、男性力があることが評価の対象でした。この点、今では機械力がその力を代行するようになり、女性であっても、例えばフォークリフトを運転できれば、力が必要な作業現場にも就職でき、こういう能力発揮の分野にも男女差がほとんどなくなっています。仕事能力として男女差がなくなることはよい事なのですが、その裏には男性らしい筋力が不要になったという事実が隠れており、生物としてこれによいかという問題がおざなりにされています。

この一文では、「発育の過程において、ヒトのもつ最大限の能力を発達させないまま、大人になり、年老いていくことの意味合い」を考えたいのです。

上記の背筋力テストが示すものは、1965年には14歳男児なら普通にできた「ヒトを背負って歩く」ができない男性(家庭では介護力がないと表現します。)が増え、女性では赤ちゃんを自分で抱っこできない母親(家庭で保育力がないと表現します。)が増えたという事実です。では、職業として介護や保育をしている方々は堅牢なのかと言えば、現代社会における育ち方は同じなのですから、身体的には同様の現象があり、つまりこれら職種の職業病の第一位は「腰椎症」「関節症」なのです。

今でもアフリカの狩猟民族は視力が2.5～3.0にも発達します。遠くの獲物を狩猟するためです。この人々を出生直後から都会で育てると現代人の平均的視力にしか育ちません。つまりこれは遺伝学的な発達ではなく、生育環境が作る「発達」なのです。現代の日本人には遠くを見る必要がない上に、近見作業(本を読む・TVを観る・電子画面を見る)が多く、またそれは平面凝視であるため、近視が多いのはすでに周知のこととして、動体視力や、震度感覚が低下していることも知っておくべきです。

上記二つの例からしても、貴方の子供さんの成育環境に今何が必要なのかを整理してみてもはどうでしょうか? きっと何か、楽しくていいことが見つかると思いますよ。(以下次号)

(平成29年7月 S.URATA MD.)

朝日新聞社主催

【私の折々のことばコンテスト】入賞作品

「頑張ったににおいがする」

つらかった小学校のころ何度もかけられた言葉で、涙の跡を残して帰宅すると、何も尋ねずギュッと抱きしめてくれた。

「障害のことで親を責めたことがないね」

聴覚に障害があり、お母さんのその言葉に涙がこぼれた。困難な発音訓練も幼いころから親子でやり通した。耳の手術の前日、「あなたは耳のせいにしてあきらめたこともないね」とも。

「まずは根拠の無い自信から」

お父さんの口癖も聞く人を得れば名言になる。何か初めてのことに挑むとき、家族の前で自分をそう鼓舞する。サケをさばく。エプロンを縫う。失敗してもいい、まずは自信をもって。

『『どうせ』ってもったいないで』

大嫌いな数学の難問を「どうせ私なんか解けへんもん」と投げ出した日のこと。「どうせ」という言い訳の沼にはまると、前に進めなくなる。お父さんがそう教えてくれた。

友達のこと、勉強のこと、部活のこと、家族のこと、夢のこと。受賞作品の一つひとつに10代の感性がきらめく。これらの珠玉の言葉は、世代を超えて私たちを支えてくれる。つらい時、壁にぶつかった時だからこそ、胸の奥深くにしみいる言葉ある。

2019. 1. 26 朝日新聞 天声人語より

文責 緒方

「子ども・若者とメディアを考える会」

期 日：平成31年3月22日(金) 19:00～

場 所：玉名郡市医師会館3階 大ホール

内 容：日常不安に思っている子供たちの健康状態の観察や指導の件について

講 師：宮城先生(玉名中央病院)